



県立大宮高校校長との懇談

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下1佐）は9月30日（木）県立大宮高校において加藤校長と懇談を実施した。

今回の懇談は当校に対する過去の受験、入校（昨年度防衛大学校へ1名入校）に対する御礼並びに今後の各種試験への受験を依頼するとともに自衛隊及び幹部自衛官などの役割、やりがい、魅力等について説明するのが目的であった。

懇談は終始和やかに行われ、校長からは生徒の進学に関する傾向や将来の仕事に関する考えなどについて話があった。最近は特に新型コロナウイルスの影響で、医療の現場に貢献したいという熱意を持った学生が増え、医大受験者が増えているとのことであった。

本部長からは最近の自衛隊に対する任務の拡大、国民から信頼や期待も大きくなっており、医療の分野においては東京と大阪に自衛隊大規模接種会場を設け、コロナのワクチン接種促進のお手伝いをしていくこと等の紹介もあった。その際、自衛隊は人が基盤の組織であり、入隊・入校された方々を一人前の自衛官に育て上げるだけでなく、退官する際も就職先をしっかり援護する素晴らしい組織であるとの説明を行い、加藤校長も自衛隊の組織力に感心されていた。

埼玉地方協力本部は今後も各学校に対して、自衛隊に対する理解を深め、各種試験への受験者を増やすために効果的な募集広報を実施するとともに、積極的に募集基盤の強化につなげていくとしている。



地元の防災フェスで募集広報活動

埼玉地方協力本部朝霞地域事務所（所長・澤谷3陸佐）は、十月二日、三日の両日、埼玉県越谷市の「越谷レイクタウン」において実施された防災フェスに、高機動車・中型トラックの装備品展示及び募集広報用ブース出展により参加した。

緊急事態宣言解除後の最初の週末であったこと及び国内最大級のショッピングモールを兼ね備えたレイクタウン施設内での活動であったこともあり、多くの市民等が訪れ、広報官等の説明に耳を傾けている姿が多く見受けられた。また、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症予防処置を確行し、来場者が安心して見学等を行えることに万全を期した。

本年度は、地本本部と連携し、ツイッター・インスタグラムでの周知を行ったが、それを契機として来場される方も少なくなかった。また、埼玉地本のマスクットである「サイポン（陸）」と「サイポン（空）」も参加したため、子供連れの関心は高く、広報面での効果は大きかった。

さらに、ブース内では、各種受験資格等の説明やパンフレット配布を行い、併せて、直近の熱海での災害派遣活動を写真にて説明し、地域住民等に対する自衛隊への関心を持つきっかけや理解促進を図った。

埼玉地本は、今後もあらゆる場面を募集活動の好機と捉え、積極的な働きかけや企画等の創造と実行により、募集基盤の強化等への努力を継続していく。

